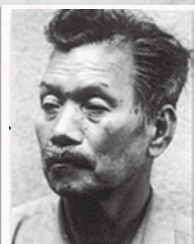
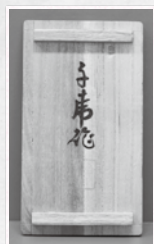


# 獣医彫刻家の岩田千虎の作品

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

松原歴史ウォーク

vol.234



▲梅雄に贈られた千虎作のカラフト犬・牛・山羊・羊(左から)と木箱

▲診察室に掛けられる秋田犬(右)とコリーのレリーフも西田幸司氏蔵

▲診察する西田梅雄(いづれ) ▲岩田千虎(石原武義氏撮影)

## 大阪の獣医師を育てた先人 松原に残る動物彫刻の逸品

十月十五日、大阪府立農芸高校(堺市美原区)で来年の創立百周年に向けた記念事業披露式が行われました。式典では、岩田千虎が同校に残した牛の彫刻の修復ブロンズ像が除幕されました。岩田千虎作品を調べる日本画家の川中信也さん(上田在住)や、三宅に工房を持ち、修復に関わった彫刻家の川瀬清さんらと共に、私も出席させていただきました。

千虎は明治二十六年(一八九三)、熊本県に生まれました。のち大阪に出て、大阪府立農学校畜産学科(現大阪府立大学)を卒業し、同校教諭を経て、大阪府立獣医畜産専門学校教授や大阪府立大学家畜病院長などを歴任しました。昭和二十四年(一九四九)、病院長を退職した後は、獣医師として堺市熊野町(堺区)の自宅で開業したのです。戦前・戦後にかけて、多くの獣医師が千虎の指導を受け、大阪を中心に誕生しました。その数、千人を超すといわれています。

一方、千虎は東京美術学校教師であった彫刻家の黒岩淡哉や、長崎の平和祈念像の作者である北村西望に師事し、日展審査員の彫刻家としても名をはせました。千虎は東久邇宮・三笠宮殿下や皇太子時代の現天皇などに牛・馬・犬像を献上するな

ど一万頭以上の牛をはじめ、馬・犬だけでなく、羊・山羊・虎など大小、数えきれないほどの動物を造りました。特に、堺市大浜公園に現存する南極観測第一次越冬隊で取り残されたタロ・ジロなどのカラフト犬慰霊像は代表的な作品です。

戦前、千虎が獣医畜産専門学校で教えていたころ、研究室の助手として松原出身の青年がいました。それが西田梅雄で、河内松原駅のすぐ南、今のJA中河内松原支店近くの上田字反正山で大正五年(一九一六)に生まれました。

梅雄は、千虎と同じく農学校を卒業しましたが、その後も千虎の教えを受け、昭和十八年(一九四三)、梅雄の妻となった律を引き合わせたのも千虎だったのです。梅雄は助手を辞した後、千虎の世話で水産会社に勤めましたが、昭和二十七年(一九五二)一月十五日、現在地の上田五丁目目で獣医を開業しました。松原だけでなく、近鉄南大阪線沿線で最初期の開業獣医師といわれています。

開院と同時に、梅雄は千虎らが開いていたのちに獣医臨床研究会とよばれた研究会に参加するようになりました。当初は、梅雄ら会員八名で各々の自宅(病院)で持ちまわって開いており、千虎も上田の梅雄宅を度々、訪れたのです。

現在、梅雄が開いた病院は、息子

の幸司さんに受け継がれています。診察室の壁に一枚のレリーフが掛けられ、秋田犬とコリーの二頭の上半身が浮き彫りにされています。右下に「千虎作」の銘が刻まれており、千虎が梅雄夫妻の獣医開業を祝い、特別に贈ったようです。幸司さんは「獣医である千虎だからわかる表情の豊かさや緻密に表現された骨格のリアルさが見られる」と述べられています。当時の日本犬の代表ともいえる秋田犬と人気の西洋犬のコリーを仲むつまじく並べた千虎の貴重な作品です。

梅雄は、他にも牛・羊・カラフト犬・山羊の置き物も所蔵していました。木箱に入れられ、表には「牛之置物」とか「羊之置物」と自筆され、裏面には「千虎作」の自筆と落款が見られます。これらの置き物は、受賞や祝賀の記念品として造られたもので、梅雄など関係者に配られた作品です。今では千虎やその小品は忘れられつつありますが、獣医彫刻家としての千虎を再評価できればと思います。

千虎は昭和四十一年(一九六六)十月六日、七十三歳で亡くなりました。梅雄も昭和五十二年(一九七七)九月一八日、六十二歳で生涯を閉じましたが、終生、自宅で千虎作品を大切に、治療にあたったことでしよう。